

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	工業・クラフト	科目：	機械製図	単位数：	2	指導学年：	1
担当教諭：							
使用教科書	702機械製図（実教出版）	副教材	基礎製図練習ノート				

年間指導目標：

機械製図の基本を学び，機械・器具の設計製図に至るまで段階を追って学習する。

そのうえで，CADによる設計製図の概要を学習する。

機械製図に関する基礎知識を，総合的にまとめる能力を身につける。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	各種機械や部品の製作に使用される図面などの作成に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得するとともに，各種機械や部品の製作に使用される図面等の役割や作図法，図面などを正しく読み，作成できる力を身につけている。	各種機械や部品の製作に使用される図面などの作成における諸問題を的確に把握（分析）し，考察を深めるとともに，機械製図に関する知識と技術を活用しながら表現する力を身につけている。	各種機械や部品の製作に使用される図面などを作成することに興味・関心をもち，機械製図の意義や役割の理解および諸問題の解決を目指して，主体的に学習に取り組もうとしている。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期	中 間 考 査	第1章 製図の基礎								
		1 機械製図と規格								
		1 図面の役目と種類	(知)	・機械や部品の製作に使用される図面の役割や「製図総則」、「機械製図」などのJIS規格の必要性を理解している。 ・誤りのない図面をかくことができる実践的な知識を身につけている。		○			○	
1 学期	期 末 考 査	2 製図用具とその使い方	(思)	・図面の役割や「製図総則」、「機械製図」などのJIS規格の重要性について理解している。考え（思考・判断）、誤りのない図面をかくこと（表現）ができる。		○				12
		1 製図用具								
		2 製図用具の使い方	(態)	・機械や部品の製作に使用される図面の役割や「製図総則」、「機械製図」などのJIS規格に興味・関心をもち，誤りのない図面をかくことに意欲的に取り組んでいる。					○	
1 学期	期 末 考 査	3 図面に用いる文字と線	(知)	・製図の基本である文字や線のかき方を理解している。 ・正確で美しい文字や線を表すことについて理解している。実践的な知識を身につけている。 ・基礎的な図形のかき方について理解している。 ・正確な図形をかくことができる実践的な知識を身につけている。		○			○	
		1 文字								
		2 線								
1 学期	期 末 考 査	4 基礎的な図形のかき方	(思)	・創意工夫（思考・判断）し，正確で美しい文字や線をかくことができる。 ・基礎的な図形のかき方について理解している。創意工夫（思考・判断）し，正確な図形をかくこと（表現）ができる。		○				12
		1 基礎的な作図								
		2 直線と円弧，円弧と円弧のつなぎ方	(態)	・興味・関心をもち，正確で美しい文字や線が表現できるよう意欲的に取り組んでいる。 ・基礎的な図形のかき方について理解している。興味・関心をもち，正確な図形がかけよう意欲的に取り組んでいる。					○	

2 学 期	中 間 考 査	3 平面曲線	(知)	・ 正確な図形をかくことができる実践的な知識を身につけている。						16	
		5 投影図のえがき方 1 投影法 2 投影図のえがき方		・ 製図の基本である投影法について理解している。 ・ 正確な投影図をえがくことができる実践的な知識を身につけている。		○			○		
		(思)		・ 製図の基本である投影図のえがき方について理解している。 創意工夫（思考・判断）し、正確な投影図をえがくことができる。		○					
			(態)	・ 投影図のえがき方について理解している。興味・関心をもち、正確な投影図がえがけるよう意欲的に取り組んでいる。						○	
2 学 期	期 末 考 査	6 立体的な図示法 1 等角図のえがき方 2 キャビネット図 3 カバリエ図 4 テクニカルイラストレーション	(知)	・ 等角図やテクニカルイラストレーションなどの立体的な図示法について理解している。 ・ 正確な立体図をえがくことができる実践的な知識を身につけている。		○				○	16
		(思)	・ 等角図やテクニカルイラストレーションなどについて創意工夫（思考・判断）し、正確な立体図をえがくことができる。		○						
		(態)	・ 等角図、キャビネット図、カバリエ図、テクニカルイラストレーションなどの立体的な図示法について理解している。 興味・関心をもち、正確な立体図がえがけるよう意欲的に取り組んでいる。						○		
3 学 期	学 年 末 考 査	第2章 製作図 1 製作図のあらまし 1 製作図 2 尺度 3 図面の様式 4 製作図のかき方と検図 5 図面の管理	(知)	・ JIS規格で定められた尺度や図面の様式等について理解している。 ・ 実践的な関連知識や技能を身につけている。 ・ 製作図のかき方や検図の仕方、および図面の管理等について理解している。		○				○	22
		(思)	・ JIS規格で定められた尺度や図面の様式等に思考・判断し、内容の理解に取り組んでいる。 ・ 製作図のかき方や検図の仕方、および図面の管理等に適切に思考・判断し、関連知識と技能(表現)を製図に活用している。		○						
		(態)	・ JIS規格で定められた尺度や図面の様式等に興味・関心をもち、内容の理解に意欲的に取り組んでいる。 ・ 製作図のかき方や検図の仕方、および図面の管理等に興味・関心をもち、関連知識と技能の習得に意欲的に取り組んでいる。						○		
										合計	78

東京都立八王子桑志高等学校 令和 8 年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	工業・クラフト	科目：	工業情報数理	単位数：	2	指導学年：	1
担当教諭：							
使用教科書	718工業情報数理（実教出版）	副教材	情報技術者試験3級テキスト				

年間指導目標：
1. 社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解する。
2. 情報技術に関する知識と技術を習得する。
3. 工業の各分野において情報及び情報手段を主体的に活用する能力と態度を身につける。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	情報技術に関する基礎的な知識と技術を理解し、情報技術を利用した情報の収集・処理・活用のために必要な技能を身につけている。	諸問題の解決をめざしてみずから思考を深め、問題解決方法を適切に判断する能力を身につけており、情報技術を活用して情報を処理・表現することができる。	情報技術に関する基礎的な知識と技術に関心をもち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的・実践的な態度を身につけている。

					評価方法					配 当 時 数	
		a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度					
学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e		
1 学 期	期 末 考 査	第 1 章 産業社会と情報技術 1 節. コンピュータの構成と特徴	(知)	・ 情報・情報処理・データ・情報化社会などの用語を理解している。 ・ コンピュータの構成要素をハードウェアとソフトウェアに区別でき、それぞれの特徴を理解している。	○	○			○	12	
		第 2 章 1 節 コンピュータの基本操作とソフトウェア	(思)	・ 情報技術の進展にともない産業社会に及ぼす影響について、光と影の部分に関して思考・判断でき、自分の考えを表現できる。	○						
		2 節 ソフトウェアの基礎	(態)	・ 現代社会では、コンピュータがどのような特徴をもち、どのように利用されているかなどについて関心をもち、意欲的に学習に取り組み、学習態度は真剣である。					○		
1 学 期		期 末 考 査	第 3 章 プログラミングの基礎 1 節 プログラム言語 第 1 章 2 節 情報化の進展と産業社会	(知)	・ 機械語、アセンブラ言語、高水準言語について理解している。 ・ 身のまわりのどの機器にコンピュータが組み込まれ利用されているか、産業界のどの分野でコンピュータがどのように利用されているか調査を行い、まとめることができる。	○	○			○	12
				(思)	・ 機械語、アセンブラ言語、高水準言語の用途を判断し、適切な言語を選択できる。 ・ コンピュータがパソコンだけでなく、制御や通信など多くの機器に組み込まれて活用されていることが考察できる。	○					
				(態)	・ 用途に応じたプログラム言語の違いや、プログラムのつくり方に関心をもち、また、コンピュータが回路や素子の構成に支えられ発達し、身のまわりのさまざまな機器やFA・OAに活用されていることに関心をもち、意欲的に学習に取り組み、学習態度は真剣である。					○	

2 学 期	中 間 考 査	第3章 2節 プログラムの作り方 第6章 1節 データの表し方	(知)	・ 基本的なプログラムを作成し、実行する技能を習得している。 ・ 2進数と16進数について理解し、四則計算や変換・計算ができる。	○	○			○	16
			(思)	・ インタプリタとコンパイラの違いを理解し、用途を考察できる。 ・ 10進数の構成から、2進数と16進数の構成が説明できる。	○					
			(態)	・ 用途に応じたプログラム言語の違いや、プログラムのつくり方に関心をもち、意欲的に学習に取り組み、学習態度は真剣である。 ・ 2進数、10進数、16進数などに関心がある。					○	
2 学 期	期 末 考 査	第3章 3節 流れ図とアルゴリズム 第6章 2節 論理回路の基礎1	(知)	・ 基本的なアルゴリズムを組み合わせることで応用的なアルゴリズムを作成する知識を身につけている。 ・ アルゴリズムと流れ図について理解し、これらを活用する技能を習得している。 ・ 基本論理回路を用いて、半加算回路や全加算回路、エンコーダ・デコーダ・フリップフロップなどを構成する技能を習得している。	○	○			○	16
			(思)	・ 最適なプログラムを記述するために必要なアルゴリズムを考えて流れ図として表現できる。 ・ 基本論理回路を用いた応用回路について、論理的に考察できる。 ・ RS-FF、JK-FF、T-FF、D-FFの違いを考察できる。	○					
			(態)	・ 問題解決の処理手順であるアルゴリズムと、アルゴリズムを実現するための流れ図を描くことに興味をもち、意欲的に学習に取り組み、学習態度は真剣である。 ・ 基本論理回路とその応用回路、エンコーダとデコーダ、フリップフロップとカウンタなどに関心がある。					○	
3 学 期	学 年 末 考 査	第6章 2節 論理回路の基礎2 第6章3節 処理装置の構成と動作	(知)	・ 基本論理回路を用いて、半加算回路や全加算回路、エンコーダ・デコーダ・フリップフロップなどを構成する技能を習得している。 ・ コンピュータに周辺装置について理解し、適切に接続する技能を習得している。	○	○			○	22
			(思)	・ 基本論理回路を用いた応用回路について、論理的に考察できる。 ・ RS-FF、JK-FF、T-FF、D-FFの違いを考察できる。 ・ コンピュータにおけるハードウェアの役割としくみを理解し、説明できる。	○					
			(態)	・ 基本論理回路とその応用回路、エンコーダとデコーダ、フリップフロップとカウンタなどに関心がある。 ・ 処理装置と周辺装置に関心がある。そして、上記の事項について意欲的に学習に取り組み、学習態度は真剣である。					○	
合計										78

東京都立八王子桑志高等学校 令和 8 年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	産業・クラフト	科目：	産業技術基礎	単位数：	3	指導学年：	1
担当教諭：							
使用教科書	自校作成資料	副教材	機械実習 1・2（実教出版）				

年間指導目標：
産業に関する基礎的な技術を実験や実習によって体験し、各分野における産業技術への興味・関心を高め、産業の意義や役割を理解させ、広い視野と倫理観を養い、産業の発展をはかる意欲的な態度を身につけさせる。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	産業の各分野に関する基礎的な知識と技能を身につけ、産業の発展と環境・資源などとの調和のとれたものづくりを合理的に計画し、実際の仕事を適切に処理する技能を身につけている。	産業技術に関する諸問題の適切な解決をめざして、広い視野からみずから思考し、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、その結果を的確に表現し伝える能力を身につけている。	産業技術について主体的に興味・関心を持ち、その改善向上をめざして意欲的に取り組むとともに、社会の発展に役立つ技術開発を積極的に学ぶ態度を身につけている。

評価方法											配当 時数
a:定期考査		b:パフォーマンス (実技・実習・課題)		c:小テスト等		d:自己評価		e:授業態度			
学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準		a	b	c	d	e	
1 学期	中 間 考 査	1. 「産業技術基礎」を 学ぶにあたって 2. 事故防止と安全作業の 心がまえ	(知)	「産業技術基礎」の学ぶ目的をよく理解させ、ものづくりが産業技術の中 で果たしている役割についての知識と技能を身につけている。この科目で は、実験・実習を中心に学習が展開されるので、事故防止と安全作業に関 する知識のたいせつさをよく理解せ、そのための技能を身につけている。			○	○		○	18
			(思)	「産業技術基礎」では、何をどのように学ぶのかを適切に思考・判断 し、その結果を適切に相手に伝える表現力を身につけている。この科目で は、実験・実習を中心に学習が展開されるので、事故防止と安全作業につ いて常に思考・判断し、その改善向上につ役立つ適切な表現力を身につけ ている。			○	○		○	
			(態)	「産業技術基礎」で学ぶ目的を理解し、産業の各分野に共通する知識や技 術に興味・関心を持つとともに、実験・実習に主体的に取り組む態度を身 につけている。この科目では、実験・実習を中心に学習が展開されるの で、事故防止と安全作業に主体的に興味・関心を持ち、その改善向上をめ ざして意欲的に取り組む実践的な態度を身につけている。			○	○		○	
1 学期	期 末 考 査	3. 実験・実習報告書の 作成 4. 寸法のはかりかた	(知)	「実験・実習報告書の作成」についてその意義をよく理解し、作成法の改 善充実をはかり、実験・実習の成果を定着させる知識を技能を身につけて いる。一般に使われている測定器の使いかたと使用上の留意点についての 正しい知識を持ち、正しい寸法測定の方法を身につけている。			○	○		○	18
			(思)	「実験・実習報告書の作成」により、実験・実習の目的や内容を再確認 するとともに、事後にも役立つように思考して判断を一層深め、的確な表現 力を身につけている。一般に使われている測定器の使いかたと使用上の留 意点について、適切に思考・判断し、正しい寸法測定法について実践し、 その手法を相手に伝える表現法を身につけている。			○	○		○	
			(態)	「実験・実習報告書の作成」に興味・関心を持ち、その改善向上を主体的 にめざして意欲的に取り組むとともに、実験・実習の成果を発展させる態 度を身につけている。一般に使われている測定器の使いかたと使用上の留 意点について、主体的に興味・関心を持ち、正しい寸法測定法の習得に意 欲的に取り組む態度を身につけている。			○	○		○	

教科・分野：	産業・デザイン・クラフト・システム情報	科目：	企業会計Ⅰ	単位数：	2	指導学年：	1
担当教諭：							
使用教科書	新簿記（実教出版）	副教材	反復式簿記問題集全商3級（実教出版）				

商業の見方、考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	・簿記の定義、目的を理解し、知識を身に付けている。 ・簿記で学習する帳簿へ記帳方法、決算書等の作成方法を身に付けている。	・簿記の学習について、目的を理解し、企業の経営活動に関連づけて思考・判断してきちんと説明できる。	・簿記の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数	
1 学 期	中 間 考 査	第1章 簿記の基礎	(知)	・簿記の基礎的な知識を身に付けている。	○		○			12	
		第2章 資産・負債・純資産 と貸借対照表		・資産・負債・純資産・収益・費用の種類、貸借対照 表、損益計算書の構造や役割を理解している。							
		第3章 収益・費用と損益計 算書									
			(思)	・簿記を学ぶことの意義と必要性を考えることができ る。 ・資産・負債・純資産・収益・費用が何かを思考し、そ れぞれの区分を適切に判断できる。	○		○				
			(態)	・簿記の学習に興味を示し、学習しようとする態度がみ られる。 ・資産・負債・純資産・収益・費用、貸借対照表、損益 計算書について関心を示し、把握しようとする態度が みられる。				○	○		
1 学 期	期 末 考 査	第4章 取引と勘定	(知)	・簿記上の取引の意味と仕訳の手順を理解している。	○		○			12	
		第5章 仕訳と転記		・仕訳帳と総勘定元帳の意味と記帳法を理解している。							
		第6章 仕訳帳と総勘定元帳		・試算表の意味と作成法を理解している。							
		第7章 試算表	(思)	・取引の分解と勘定記入、転記について適切に判断し、 正確におこなえる。 ・仕訳帳・総勘定元帳への記帳を適切に判断し、正確に おこなえる。 ・試算表の種類について思考し、適切に作成できる。	○		○				
			(態)	・貸借平均の原理について関心を示し、把握しようとする態度 がみられる。 ・仕訳と転記に自ら進んで取り組もうとしている。 ・記録を正確に行うことの大事さに関心を示している。 ・試算表がなぜ必要か考え、その役割について関心を持ち、把 握するような態度を示している。					○	○	

2 学 期	中 間 考 査	第10章 現金・預金などの取引	(知)	・現金・預金、商品売買、掛け、手形に関する基本的な内容とその記帳法を理解して基礎的な技術を身に付けている。	○		○			16
		第11章 商品売買の取引		・3分法による記帳法や仕入帳・売上帳、商品有高帳に関する知識とその記帳法を理解している。						
		第12章 掛け取引								
		第13章 手形の取引	(思)	・現金・預金、商品売買、掛け、手形の取引について、その記帳に関して、自ら考えを深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身に付けている。	○		○			
			(態)	・現金・預金、商品売買、掛け、手形の取引に関心を高め、その記帳処理の学習を積極的に進めようとしている。					○	○
2 学 期	期 末 考 査	第14章 その他の債権・債務の取引	(知)	・その他の債権・債務、固定資産、個人企業の資本、販売費及び一般管理費の取引等に関する基本的な内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身に付けている。	○		○			16
		第15章 固定資産の取引		・その他の債権・債務、固定資産、個人企業の資本、販売費及び一般管理費の取引等の記帳に関して、自ら考えを深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身に付けている。						
		第16章 個人企業の資本の取引		・その他の債権・債務、固定資産、個人企業の資本、販売費及び一般管理費の取引等に関心を高め、その記帳処理の学習を積極的に進めようとしている。						
		第17章 販売費と一般管理費、税金の取引	(思)		○		○			
			(態)						○	○
3 学 期	学 年 末 考 査	第18章 決算整理（その1）	(知)	・決算手続き、8桁精算表の意味を理解し、決算手続きに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。	○		○			22
		第19章 8桁精算表		・貸借対照表、損益計算書の作成方法を身に付けている。						
		第20章 帳簿決算		・なぜ決算整理を行うのか、なぜこのように整理仕訳を行うのかなどについて思考し、財務諸表を活用して企業の状況について判断し、決算結果を財務諸表に明瞭に表現できる能力を身に付けている。						
			(思)		○		○			
			(態)	・決算整理が企業の経営成績にどのような影響を与えるのかに関心をもち、自ら考える態度を示している。 ・貸借対照表、損益計算書からビジネスの諸活動を把握しようとしている。					○	○
合計										78